

京北の遺跡

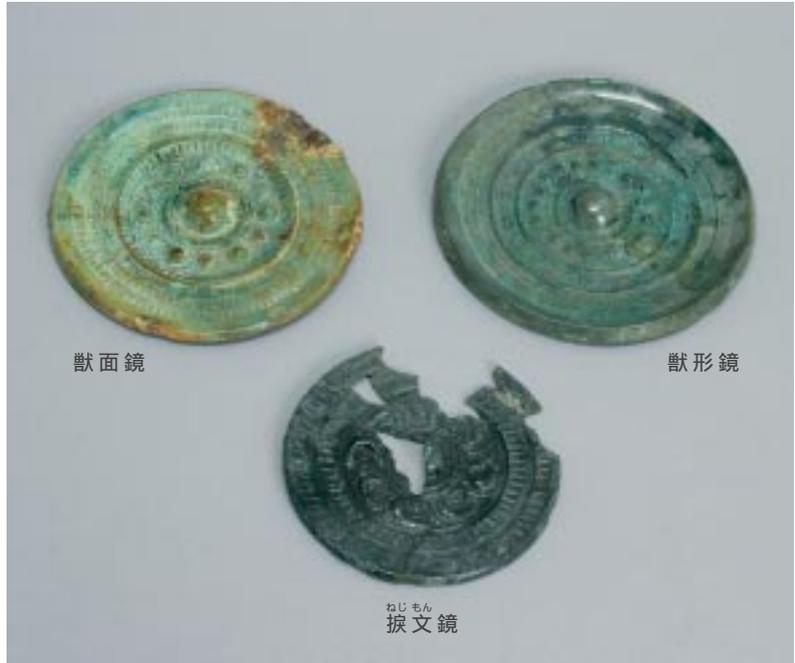
<http://www.kyoto-arc.or.jp>
 (財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに 2005年4月1日、京都府北桑田郡^{けいはく}京北町は京都市右京区に編入合併し、右京区京北になりました。それにともない、遺跡の現状確認調査と分布調査を2005年5月に行ないました。調査に基づいて、京北の遺跡のようすを見てみましょう。

右京区京北 京都市街地の北西にあたり、周囲を標高1000m未満の山々に囲まれ、平均標高200～600m、総面積約218km²の93%が山林です。^{ゆげ}弓削川と^{かみかつら}上桂川が周山付近で合流して^{おおし}大堰川となり、京都府船井郡八木町、亀岡市を経て嵐山で桂川となります。弓削川に沿うように、国道162号線(周山街道)が北上します。東は京都市左京区、西は船井郡八木町・日吉町、南は京都市北区、北は北桑田郡美山町に接しています。

この範囲は、古代の行政区分では丹波国桑田郡に属します。京北の遺跡は、上桂川・弓削川・大堰川により形成された細長い流域の周山盆地ともよばれている山地の裾部に多くが点在しています。京都府教育委員会を中心に実施されてきた調査では101箇所の遺跡が確認され、府の遺跡地図に明示されています。

各時代の遺跡 縄文時代の遺跡は弓削川沿いを中心に、遺物散布地が5箇所確認されていますが、



愛宕山古墳出土の銅鏡 京都府有形指定文化財(考古資料)



愛宕山古墳出土の勾玉 京都府有形指定文化財(考古資料)

本格的な調査はされていません。

弥生時代の遺跡は6箇所で確認されています。中には圃場整備(ほじょう)ともなう発掘調査で、竪穴住居や

掘立柱建物などの遺構が検出された上中太田遺跡や塔遺跡などの集落跡があります。府立北桑田高校内の調査で土壌墓群が検出された

上中遺跡が弓削川右岸にみられます。左岸の丘陵からは南丹波地域では唯一の銅鐸が発見されています。弥生時代中期頃に大堰川をさかのぼるルートや日本海沿岸に通じる経路によって、当地に弥生文化がもたらされた事を示すものです。

古墳時代になると遺跡が増加し、現在までに180基以上の古墳が確認され、京都府では亀岡市に次ぐ多さです。古墳時代中期の愛宕山古墳と周山古墳群を除けば、古墳時代後期に造られた横穴式石室を内部主体とする群集墳で、さらに数多く存在するものと思われます。1982年に調査が行なわれた^{あたごやま}愛宕山古墳は、5世紀前半に造られた1辺が約20mの方墳で、主体部からは国産の銅鏡が3面、玉類^{まがたま}（勾玉・管玉・ガラス製小玉など）、

鉄製武器（鉄剣・鉄鏃^{てつそく}など）や鉄製工具などの副葬品が出土しています。これらのことから京北地域の首長墓とみられ、周山1号墳から愛宕山古墳へと続く方墳による首長墓の系譜をたどれます。

飛鳥時代から奈良時代の遺跡には1947年に調査された周山廃寺があります。当地域の要所である弓削川と上桂川の合流点の北、周山の町が見下ろせる台地の上に立地し、現在は周山中学校の敷地に塔・堂・門跡が府指定史跡として保存整備されています。また南西の対岸には丘陵の中腹に、当廃寺の所用瓦を焼いた窯である周山瓦窯跡が1978・80・81年に調査され、府指定史跡となり宅地の西に現状保存されています。

平安時代以降は、^{やまくに}山国や弓削の地域は宮都、諸寺院の建立のため

の木材供給地として発展しますが、特に山国は中世から近世にかけて天皇直轄の禁裏御料地として皇室との関係が深く、光厳天皇が建立した常照皇寺には光厳・後花園天皇陵や経塚が残っています。また上中城跡・周山城跡・宇津城跡などの中世城郭も残存しています。1993・94年に調査された上中城跡は旧京北町指定史跡として公園となり、地元の憩いの場になっています。

まとめ このように京北は、都からも、あるいは日本海沿岸からも多彩な文化が入る地域として存在していたといえましょう。また京都市との合併によって、今後、京の歴史を合わせることで、京北地域の歴史に対する視角が、さらに広がるといえます。

(加納 敬二)



周山廃寺の礎石列



上中城跡の土塁



京北の位置と遺跡の分布